

熊本市 感染症発生動向調査 速報

現在の流行状況

伝染性紅斑(りんご病)が引き続き警報レベルです！

熊本市の第50週(12月7日～12月13日)の定点医療機関あたりの患者報告数は、2.88人(定点数16ヶ所、患者報告数46人)となり、前週(2.50人)より増加し、6週連続で国の警報レベル(開始基準値2、終息基準値1)となっています。

伝染性紅斑(りんご病)は、微熱やかぜ症状の後に発疹が出て頬が赤くなります。咳のしぶきやくしゃみにより感染します。ていねいな手洗いやうがいを行い、感染予防に努めましょう。

感染性胃腸炎に注意しましょう！

定点医療機関あたりの患者報告数は、7.44人(定点数16ヶ所、患者報告数119人)で3週連続で増加しています。冬場にはノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が流行しますので気をつけましょう。

【感染性胃腸炎について】

○感染経路：食品から感染する場合と、人から感染する(ウイルスが手などに付いて口から入る、吐物の飛散など)場合があります。

○症状：原因となる病原体や患者の状況により異なりますが、発熱、下痢、吐き気、嘔吐、腹痛などがあります。

○治療法：特に、体力の弱い乳幼児、高齢者は、脱水や体力の消耗を抑えるため、水分と栄養の補給を充分に行いましょう。脱水症状がひどい場合には、病院で輸液を行うなどの治療が必要になります。

下痢止め薬は、病気の回復を遅らせることがあるので使用しないことが望ましいでしょう。

○予防方法：石鹼を使ってていねいに手洗いをしましょう。食品はきちんと加熱してから食べましょう。

患者の便や嘔吐物は、次亜塩素酸ナトリウムなどを使用し処理をしましょう。

期 間		平成27年 第49週		平成27年 第50週	
		11/30～12/6		12/7～12/13	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		1	0.04	3	0.12
RSウイルス感染症		34	2.13	35	2.19
咽頭結膜熱(プール熱)		13	0.81	9	0.56
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		41	2.56	46	2.88
感染性胃腸炎		99	6.19	119	7.44
水痘(みずぼうそう)		4	0.25	5	0.31
手足口病		10	0.63	11	0.69
伝染性紅斑(りんご病)		40	2.50	46	2.88
突発性発しん		10	0.63	16	1.00
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		0	0.00	1	0.06
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		13	0.81	9	0.56
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		19	3.80	16	3.20
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		4	0.80	2	0.40
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	2	0.40